

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和4年9月分）

【製造業】

○製造業は、7月の鉱工業生産指数は前月比▲0.6%となった。ヒアリングでは、売上高は増加しているものの、価格転嫁が追いつかず、利益を圧迫しているとの声や、今後も電気料金の値上げが予想されており、自社で打つ手段がないとの声、更には、半導体にとどまらず、電装品関連の調達難が継続しており、生産計画を維持するため代替品への切り替えなど対応に苦慮しているとの声が聞かれた。

【地場産業】

○地場産業は、7月の鉱工業生産指数は、木材・木製品、家具、窯業・土石、パルプ・紙、食料品で低下した。ヒアリングでは、価格転嫁により受注減少が散見されるとの声や、値上げすると他社に乗り換えられるため、値上げには慎重であるとの声、また、原材料高騰に伴う経費削減の観点から、製造販売商品を限定するなど事業をスリム化し、この苦境を乗り越えていく方針との声も聞かれた。

【設備投資】

○設備投資は、8月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比10.7%増加した。ヒアリングでは、業況回復後の国内回帰、増産を見込んでおり、新規製品製造のための設備を導入したとの声や、ロボット導入により、生産性向上や増産体制の構築、内製化を計画しているとの声、業務効率の改善とグローバル対応を視野に、IT投資を積極的に進めているとの声が聞かれた。

【個人消費】

○個人消費は、8月の販売額は、家電大型専門店、百貨店・スーパー、ホームセンターで減少し、全体で▲0.9%となった。ヒアリングでは、原油・原材料価格高騰に伴い、利益を圧迫しているとの声や、コロナの行動制限が緩和されてからも居酒屋などの飲食店は集客が戻らず、売上は横ばいとの声が聞かれた。

【観光】

○観光は、8月の観光客数、宿泊者数は令和元年同月比▲32.6、▲16.2%となった。宿泊施設からのヒアリングでは、外国人観光客の問い合わせが増えてきているとの声が聞かれた一方で、全国旅行支援が開始しても、人員不足により満室まで予約を受けられない恐れがあるとの声も聞かれた。

【資金繰り】

○企業の資金繰りは、8月の制度融資実績は、件数、金額とも16ヶ月連続で前年同月比で減少した。金融機関からは、価格転嫁はできているという声を聞くが充分ではなく、利幅が落ちているため、今期決算は悪化を免れられず、今後の業況を注視しているとの声が聞かれた。

【雇用】

○雇用面は、8月の有効求人倍率は1.69倍と12ヶ月連続で1.50倍を超えた。ヒアリングでは、大手自動車メーカーの減産に伴う受注の減少により、人手不足は感じていないとの声や、高度人材は募集をかけているものの応募がない状況との声、今後、少子高齢化による人手不足になることを見据えて、機械による自動化を進めているとの声も聞かれた。

【景気動向】

7月の景気動向指数（一致指数）は前月比1.5ポイント上昇、8月の中小企業の景況感とは同±0ポイントとなった。